

拝啓 今年も早や1月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。毎日朝と昼、散歩をしています。散歩のときは、太陽の輝き、木漏れ日、池の面の太陽光の反射などに向かって歩き、靈感を受けるようにしています。いまは花がほとんどない時期ですが、遠くの山の展望を楽しんでいます。丹沢とその奥の富士山はよく見えますが、私の散歩コースから、冬になりますと、南アルプスの北岳(3192m)と間の岳(3189m)と農鳥岳(3051m)が見える日があります。北岳が見えるときは、うれしく感じるのですが、特定の山が見えてうれしいとは、相当おめでたい人ではないかと思えます。

今回は佐生健光さんの『キリスト教と称名』の第11回です。詩篇とイザヤ書の称名箇所を紹介ですが、詩篇には、実に多くの箇所です。イザヤ書の53章は、来るべきメシア(イエス・キリスト)の予告とみなされる所で、私はイザヤ書は、旧約聖書の中で最も大切な書であり、いつかよく勉強してみたいと思っておりました。今回、佐生さんの引用されたイザヤ書の箇所は、11章1-10節、12章4-6節、53章、55章6-7節、58章9節、59章21節ですが、イザヤ書の重要部分が、ほとんど引用されているように思います。そのほとんどで「御名を呼べ」ということばが出てきます。称名が、旧約の時代から重要な教えであったことが分かります。

「主を尋ね求めよ、見いだしうるときに。

呼び求めよ、近くにいますうちに。」(イザヤ書55章6節)

「あなたが呼べば主は答え

あなたが叫べば

「わたしはここにいる」といわれる」(イザヤ書58章9節)

本誌読者で、小西芳之助先生の長女の細井スワコ様の御主人細井睦美様が12月25日急逝されました。スワコ様とご主人は、毎朝内村鑑三先生の『一日一生』のその日の箇所を読んでおられたという仲睦まじいご夫婦でした。訃報を知らせる御挨拶状に、「当日まで医師としての仕事を全うし」とありますから、突然の急逝であったようです。御悲しみはさぞやと思い、心よりご同情申し上げます。

緊急事態宣言が出され、高円寺東集會も、ズーム方式で開く事に変更して、2回開催しました。対面方式とほとんど同じプログラムで開けるようで、地方に参加の方も参加できるかもしれません。ズーム参加のご希望があれば、お知らせください。(開催日第2、第4日曜日、11:00から。但し、緊急事態宣言が解除されたのちは、再び対面方式に戻ることになると思います。) ズームは、参加者の顔を見ながら会話ができますので、コロナ流行の時代には、簡単で、便利な情報伝達手段だと思います。

新型コロナの流行は、大半の国民にワクチンが注射されるまで、まだ当分続くように思います。どうぞ皆様ご注意されて、マスク、手洗い、うがいなどを励行されまして、お体には十分ご注意下さるよう、お祈り申し上げます。

1月24日

山口周三

エンカウンターの読者各位